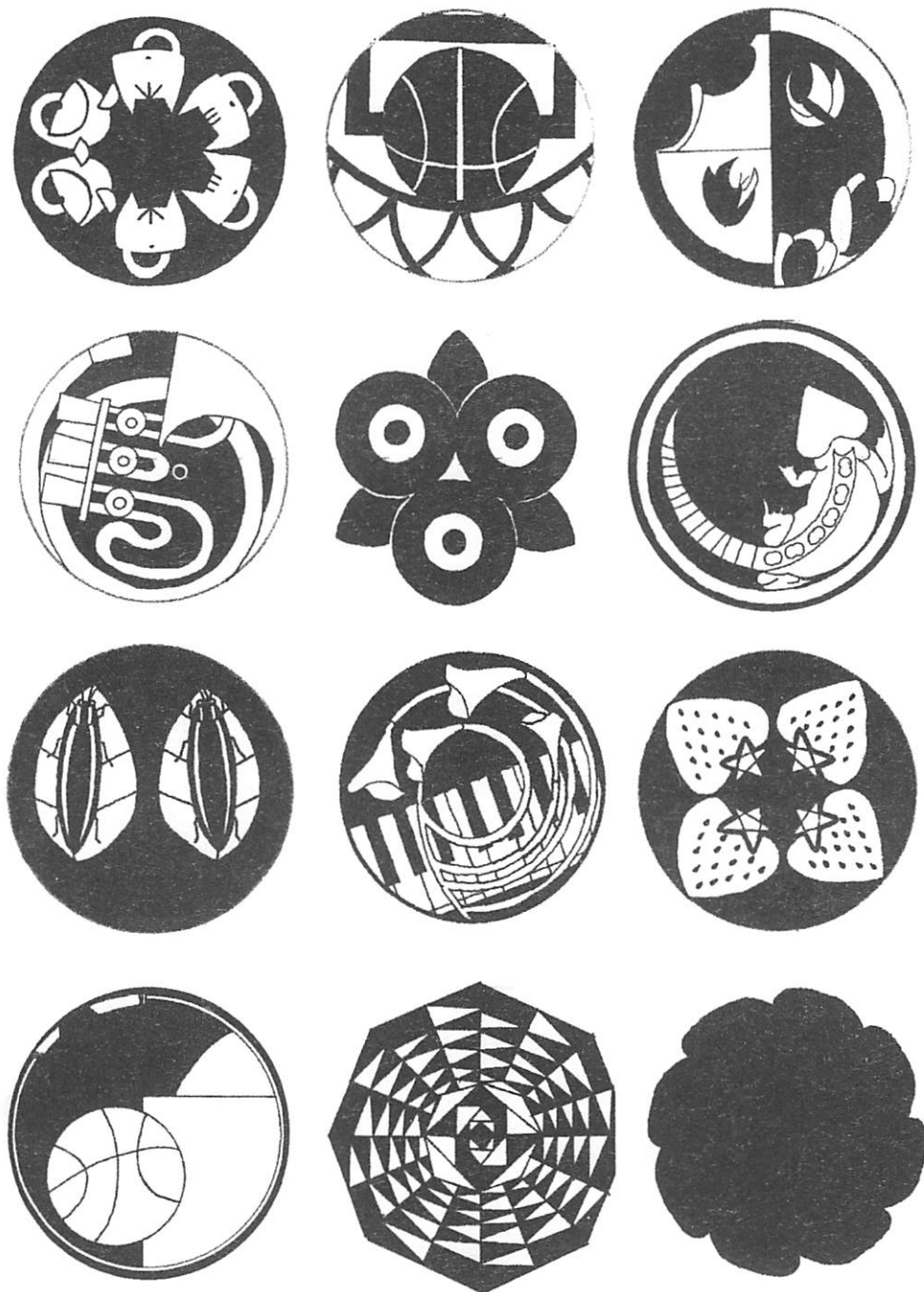


「粘り強く構想を練る力を養うと共に、
心豊かに生活していく態度を培うための授業展開の工夫」



佐倉市立井野中学校 風間 由梨子

令和7年8月22日(金)

成田市立下総みどり学園

I 研究主題

粘り強く構想を練る力を養うと共に、心豊かに生活していく態度を培うための授業展開の工夫

II 主題設定の理由

本校は、佐倉市の京成線ユーカリが丘駅の北部に広がる地域に位置し、今年創立42年目になる。江戸時代には幕府にとって、重要な地域であった佐倉市は城下町として歴史がある。その中で大型商業施設やユーカリが丘駅を中心とした、子育てや住みやすい街を目標に都市開発が進む地域でもある。歴史と新しい街の中で、生徒数532名(1学年190名・2学年177名・3学年165名)の中規模校として、伝統を重んじながら新しいことへ挑戦しようとする学校である。

また、本校は県のキャリア教育モデル校として「将来の夢と学業を結びつけ、学習意欲を高めるためのキャリア教育の実践」を研究主題としている。特に、ICT 機器を効果的に活用した学習方法の工夫に力をいれている。美術科でも資料探しだけでなく、自分の制作の記録や制作過程、アイデアや意見の共有に活用している。

学習指導要領では、美術科の目標(3)『美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う』と示されている。中学美術の授業が学校生活の一部としてだけで終わるのではなく、学校外の生活や将来の社会生活も見据え、自分の作品やアイデアを大切にしながら、美術で身に付けた力や感性で心豊かな生活を送ることができるようにしていきたい。

以上の理由から、本題材を設定した。

III 仮説

仮説1

一つのデザインを追求することで、より洗練された美しいオリジナルのデザインに仕上がり、粘り強く構想を練る力を養えるだろう。

手立て①モチーフを選ぶ際に、自分で興味がわくものや愛着のあるものにする。

愛着のあるデザインにするため、モチーフを自ら興味がわくものや愛着のあるものにする。自分の持ち物を画像で撮ってきて資料としたり、実写の画像を利用して形の特徴を考えさせたりすることで、主観的に形をとらえることができると考えた。

手立て②I C Tを活用して、アイデアを練り、記録する。

単純な形の表現なので、手で描くだけではなく、円や線をタブレット端末上で動かして形を考える。また、その時間に考えたデザインを記録していき、デザインが出来上がっていく上で、形が洗練されていくのを実感できると考えた。

仮説 2

他者の意見を取り入れることで見方や感じ方を深められ、より追求した形に仕上がるだろう。

手立て①I C T の活用で作品や意見を共有しやすくする。

鑑賞でまとめた意見や、毎時間の制作の記録を画像で保存、共有する。自分の作品の変化と友人の意見や作品のよさを共有しやすくすることで、より深い学びができるだろうと考える。

手立て②全体鑑賞と班別鑑賞をアイディアの途中に入れる

全体鑑賞では、アイディアを練る4時間目に取り入れ全員の作品を見る。他者のアイディアに触れ、形の工夫のヒントを得ることができ、単純化などで行き詰まっていた生徒も手を動かすことができるだろうと考える。

また、デザイン仕上げの終盤に班別鑑賞をいれ、完成間近のデザインについて話し合うことを通して客観的な視点を入れることができ、よりデザインが洗練されると考える。

仮説3

生活の中で使うことで自分のデザインに愛着を深め、心豊かに生活していく態度を培えるだろう。

手立て デザインした紋を使えるものに大きくプリントする

完成した紋を持ち歩けるトートバッグにプリントして使うことで相互鑑賞となり、より紋の形の特徴や自分でデザインした形の見方や感じ方を深めていけるだろうと考える。また、下級生が上級生の作品を日常生活の中で見ることで美術の授業への興味、関心が高まっていくことが期待できる。

IV 研究の実践

1 題材名「紋デザイン ～愛着が持てるオリジナル紋をつくろう～」

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領にある第2学年および第3学年の内容を受けて設定した。

A 表現(1)イ(ア) 構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和の取れた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。

B 鑑賞(1)イ(イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、美術を通した国際理解や美術文化の継承と想像について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項との関連〕

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などを捉えることを理解すること。

日本の美術文化の造形的な特徴に、単純ですっきりとした印象があることが挙げられる。西洋文化との違いはもちろん、多くの文化は隣国中国から入ってきているにも関わらず、中国や他のアジア諸国と比べても質素で簡素な絵画表現や建築物、庭園などの名品が数多く存在する。しかしそれらは単純だからといって簡単に生み出されたものではなく、単純だからこそ時間をかけて、何度も試行錯誤を繰り返し、美しい形が追求されて表現されている。紋はそんな洗練された美術文化を代表する表現の一つである。

家紋の始まりは平安時代、貴族の牛車にどの家の者が乗っているのかわかるように施された模様や衣装につけた模様が始まりとされる。その後、戦国時代には軍旗に印され、合戦の際に敵や味方がどのように闘っているのか判別できるように活用された。江戸時代には、将軍や武家のみならず商人や職人などの庶民にも広がり、店頭の暖簾、着物の模様、小物の印など生活の中に家紋が溢れていた。明治では、苗字を名乗るとき、紋を選び、格の高い着物や墓石に印して家を示すために多くの人が家紋を持っていた。現代では、着物の着用が減ったことや墓仕舞いなどで家の繋がりとも言える家紋の存在は減ってきているが、店や企業のロゴマークやデザインの中にそのシンプルな形を活用しているものもある。家紋は時代の変化の中で用途を変えながらも、生活や社会と密接に関わりを持ってきた。また、紋はもともと正方形の形を基にしている。そこにも和算からくる我が国独特の白銀比という文化がある。このような紋の様式は遠い過去から現代に続く美術の長い歴史の中で、先人の努力や知恵が受け継がれ、発展していく中で作られたものである。

美術科の学習を通して、先人の感性や美意識を活かし、新たな感じ方や感性を育てることにつながるものである。

(2) 生徒の実態

本校が掲げる「井野中学校五つの伝統」の一つに「高い学習意欲」があり、授業に対して毎時間の学習目標を意識しながら、主体的に学習に向かえる生徒が多くいる。全国の学力テストでは全国や県の平均値を大きく上回る成果を上げている。

また絵を描いたり、ものづくりに興味や関心を持つ生徒も多く、1年次の授業も積極的に行なっていた。

1年次に美術科で学んできた内容

題材	目標	学習内容
ファイル表紙絵の制作 (絵画・デザイン)	3年間愛着を持つことのできる表紙絵の制作。	・絵の具の技法練習 ・文字のレタリング ・絵の具の表現の面白さ
木彫皿制作(工芸)	使う人や場面を考え、木彫のよさを生かしたお皿の制作。	・彫刻刀の使い方 ・工芸の目的 ・木のよさ
粘土の立体制作(彫刻)	生命力を感じる形を絵や立体で表す。	・デッサンの練習 ・芯材を用いた、立体制作の方法 ・生命力を感じる形
色で伝える名刺(デザイン)	自分を色で伝える。	・色彩の仕組み ・人に伝える色の工夫
鑑賞① 素晴らしい絵画	「素晴らしい作品」とは何かを考え、絵画を鑑賞する視点を学ぶ。	・ダヴィンチ、マティス、バスキアの作品の鑑賞。
鑑賞② 美術館の役割	美術館の意義や役割を考える。	・美術館の歴史 ・美術館の設備
鑑賞③ リアルな表現方法(絵画)	リアルな表現とは何かを考え、絵画の表し方の可能性を考える。	・「アビニヨンの娘たち」の鑑賞

表現や鑑賞で学んできたものは西洋的な内容が多く、日本の文化に触れることが1年次で木彫制作のみとなっている。またデザイン分野の形としては、文字の形を読みやすく、美しく表現することを学んできた。明朝体やゴシック体の形を理解して、整えていく学習はできているが、思考力を働かせて工夫していく表現には至っていない。

1年次の経験を踏まえて、日本の伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めると共に、デザインの形としての面白さを新たに発見させられる授業にしたい。

(3) 指導観

紋の「形」という限られた要素を追求することで、一つのものをじっくりと考えさせる。デザインに時間をかけることで、洗練された形がどのようにつくられているかを体験させたい。その中で日本の伝統的な様式や美意識に気づかせ、特徴やよさに触れる。また現在、日本の国内外で日本の文化が見直されていることや自分が住む日本という国について考えさせるきっかけとする。

今回の紋デザインでは、タブレット端末を用いて、デザインを仕上げさせるだけでなく、制作途中で作品のアイディアや意見を交換させる。友人の意見やアイディアから学び取ったことを、自分のアイディアに生かしていけると考える。そうすることで自分のデザインに自信が持てず、制作が止まってしまう生徒の一助としたい。また、相互鑑賞の班別鑑賞では、直接会話を交わすことで、発信者と受信者の一方的なやりとりだけでなく、思考を深められるように助言していく。

今回の作品制作を通して、日本の文化に対して興味を持ち、自分の作品やアイデアを大切にしていける態度を育みたい。そして、この経験が、自らの表現活動だけでなく、生涯にわたって社会や文化、そして日常の美しさと豊かに関わる基盤となることを期待する。

3 題材の目標

- 単純化された紋の形の特徴を理解するとともに、意図に応じてモチーフを単純化する。定規やコンパスを用い、直線や円を効果的に利用して、自分の表現方法を追求し、円の中に美しく収まる形を表現することができる。
- 伝統的な紋の形から、単純化の効果や円の活用について理解を深め、表現に生かすことができる。

(知識及び技能)

- 日本の伝統的な形の見方や感じ方、またその活用について考えを深めることができる。
- 紋の美しさや生活に生かすことについて発想し、構想を練ることができる。

(思考・判断・表現等)

- 美術の創造活動の喜びを味わい紋の造形的な特徴のよさや美しさを感じながら、主体的に知識・技能に生かそうとしている。
- 紋の造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫についての見方や感じ方を広げ、日本の美術に対する愛好の心情を深めようとしている。

(主体的に学びに向かう力、人間性等)

[共通事項との関連]

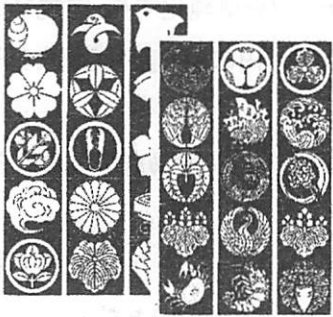
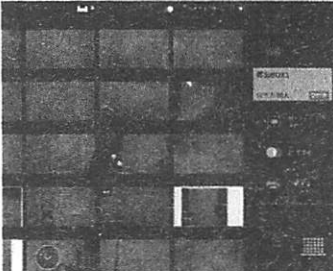
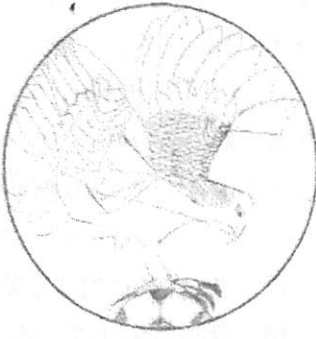
ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

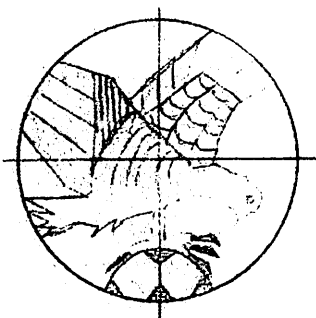
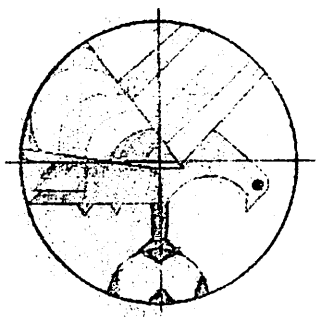
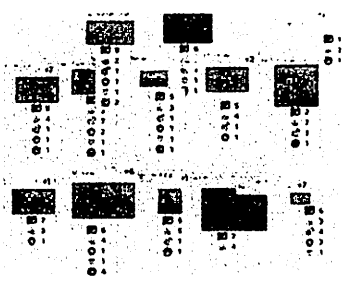
イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などを捉えることを理解すること。

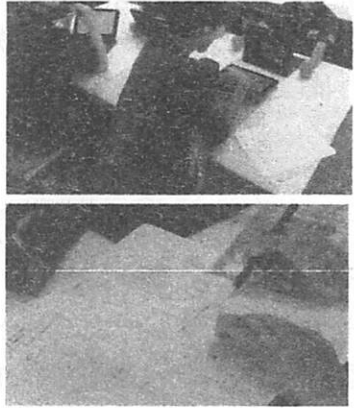
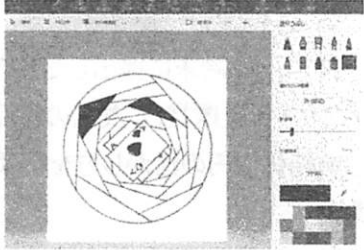
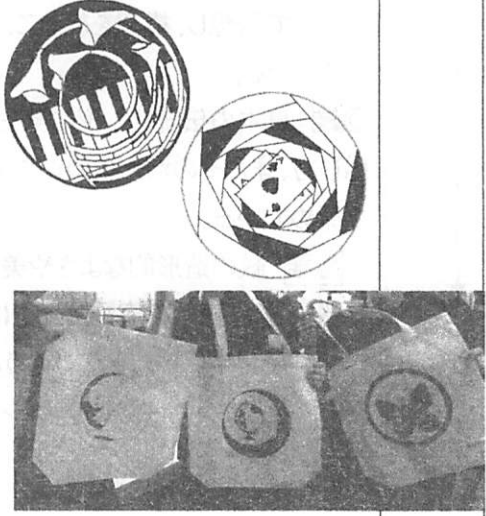
4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 単純化された紋の形の特徴を理解している。 技 意図に応じてモチーフを単純化し、円の中に美しく収まる形を表現している。 技 定規やコンパスを用い、直線や円を効果的に表現している。	発 紋の美しさや生活に活かすことについて発想し、構想を練ることができる。 鑑 日本の伝統的な形の見方や感じ方、またその活用について考えを深めている。	態表 美術の創造活動の喜びを味わい紋の造形的な特徴のよさや美しさを感じながら、主体的に知識・技能に生かそうとしている。 態鑑 紋の造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫についての見方や感じ方を広げ、日本美術に対する愛好の心情を深めようとしている。

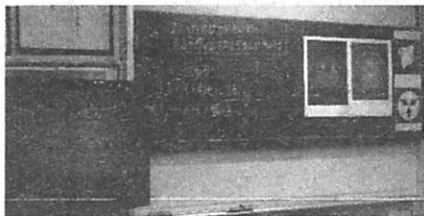
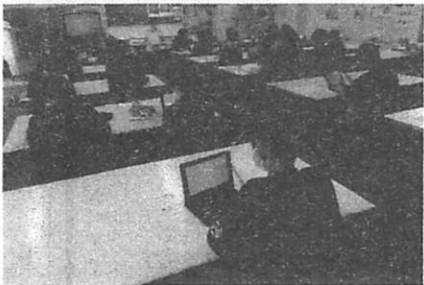
5 指導と評価の計画(全8時間)

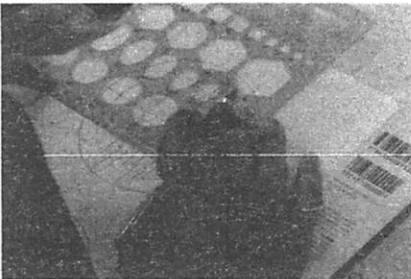
時 配	学習のねらい・学習活動	評価の観点			○教師の指導改善につながる留意点 ◎評価基準【評価方法】
		知・技	思	態	
1	1 導入・鑑賞(1時間) ・紋の形の特徴を理解する。  ・様々な紋の形を鑑賞して、紋の形の特徴をまとめる。 ・タブレット端末で友人の意見から、更に特徴を考える。 ・タブレット端末でネットやAIの情報を確認し、自分や友人の意見との相違点を学ぶ。 	知 ↓ 知	発 ↓ 発	態表・鑑 ↓ 態表・鑑	○紋のカードを30個準備して、紋の様々な形に触れる。 ○自分の言葉で形の特徴をまとめられるように助言する。 ○友人と自分の意見の相違点に気づけるように支援する。 ○一般的な紋に対する解釈と自分達の考えた意見との相違点を考えさせられるように支援する。 ◎知 単純化された紋の形の特徴を理解している。【ワークシート】 ◎発 日本の伝統的な形の見方や感じ方を深めている。【ワークシート】 ◎態表 自分自身の考えを持ち、紋の造形的なよさや美しさを感じ取り日本の美術に対する愛好の心情を深めようとしている。【ワークシート・観察】 ◎態鑑 友人の話を聴き、自分の意見との相違点から考えを深めようとしている。【ワークシート・観察】
1	2 発想や構想(4時間) ・アイデアスケッチ ① モチーフを円に収める。 	技 ↓ 技		態表 ↓ 態表	○単純化することはこの後行うので、まずは円にモチーフをどのように収めるか考えさせる。 ◎技 モチーフを単純化し、円の中に美しく収まる形を表現している。【ワークシート・観察】

1	・アイディアスケッチ ②形を単純化させる。 	技		○単純化するために必要なポイントを全体で確認し、机間巡視によりできている点に着目しながら個別指導する。 ◎技 モチーフの特徴を理解して、形を単純化している。 ◎態表 美術の創造活動の喜びを味わい紋の造形的な特徴のよさや美しさを感じながら、主体的に知識・技能に生かそうとしている。 【ワークシート・観察】
1	・アイディアスケッチ ③円や直線で形を整える。 			○桜や雁金の紋の描き方をパワーポイントで説明し、紋の中に円がたくさん使われていることに気づかせる。 ◎技 定規やコンパスを用い、直線や円を効果的に利用している。 ◎技 単純化の効果や円の活用について理解を深め、表現に生かしている。【ワークシート・観察】
1	・友人の作品を鑑賞し、アイディアの参考にする。 ・アイディア(形)完成 		発	○タブレット端末に提出したアイディアスケッチを鑑賞し、友人の作品から単純化や円の活かし方を学ばせる。 ○特に単純化や円の使い方で良かった点に着目させ、タブレット端末でコメントさせる。 ◎発 紋の美しさや生活に活かすことについて発想し、構想を練ることができている。 ◎鑑 日本の伝統的な形の見方や感じ方、またその活用について考えを深めている。 ◎態鑑 紋の造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫についての見方や感じ方を広げようとしている。【タブレット端末のコメント・ワークシート・観察】
		技	発	態表・鑑

1	3 鑑賞(1時間) ・班別鑑賞 ・4人1組でそれぞれのアイデアについて、工夫した点や悩んでいる点について発表し、友人のアイデアにアドバイスをする。 	発 態鑑 発 態鑑	○自分の工夫したところを言葉にできるようにさせる。 ○友人の工夫した点や悩んでいる点を理解させ、良い点や改善できそうな点について話合わせる。 ○友人のアイデアやアドバイスから、発想し、構想を練る手助けとなるように支援する。 ◎態鑑 友人のアイデアから、紋の造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫についての見方や感じ方を広げようとしている。 【ワークシート・観察】
2	4 制作(2時間) ・形を整え、着色する。 	態表 態表	○白と黒のバランスに気をつけさせ、色をつける場所を決める。 ◎態表 美術の創造活動の喜びを味わい紋の造形的な特徴のよさや美しさを感じながら、主体的に知識・技能に生かそうとしている。 【ワークシート・観察】
	5 授業外 ・完成した紋の活用 	発 態鑑 発 態鑑	○完成した紋をデータ化する。それをトートバッグにプリントし、生活の中で使えるようにする。 ◎発 紋の美しさや生活に活かすことについて考えている。 ◎態鑑 紋の造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫についての見方や感じ方を広げ、日本の美術に対する愛好の心情を深めようとしている。 【課題の振り返りシート・観察】

6 本時の指導

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価(観点)【方法】	資料
5	【見いだす】 1 前時を振り返り、本時の学習と学習の目標を知る。	● 前時までのアイデアから、自分のデザインについて振り返らせる。	振り返り用紙
	友人のアドバイスから、紋の形の見方や感じ方を広げ、デザインに活かそう。		
5	【自分で取り組む】 2 今のデザインを振り返り、工夫した点や悩んでいる点をまとめる。	  ● 本時では、紋のデザインの完成に向けて、相互鑑賞を行い、友人からアドバイスをもらうことを説明する。 ● 板書と言葉で今まで学習してきた内容を振り返らせる。 ① 円に収める ② モチーフを単純化 ③ 円や直線で整える ● 選んだモチーフの理由や表したいことを整理させる。 ● 言葉で説明できるように支援する。	ワークシート タブレット
15	【広げ深める】 3 友人のデザインやアドバイスから、紋の形の見方や感じ方を広げる。 ● 4人班を作り一人ずつ2分間で、デザインについて話し、友人からアドバイスをもらう。	● 友人の作品をよく見て、説明を聞き、工夫されている点や表したいことが表せているか考える。 ● 具体的に感想をのべられるように助言する。	タブレット

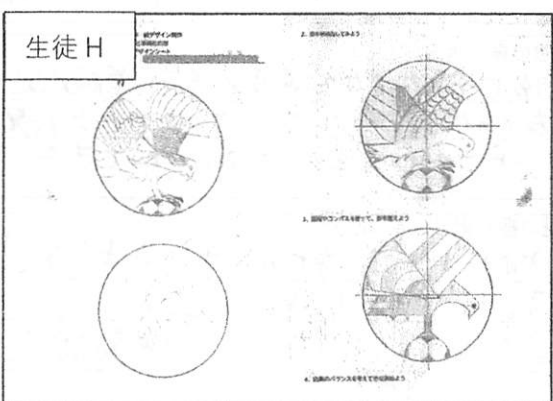
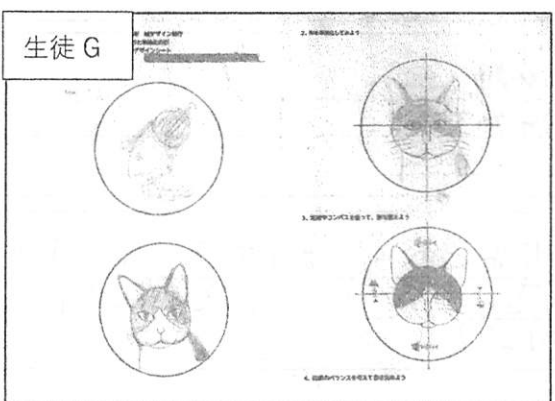
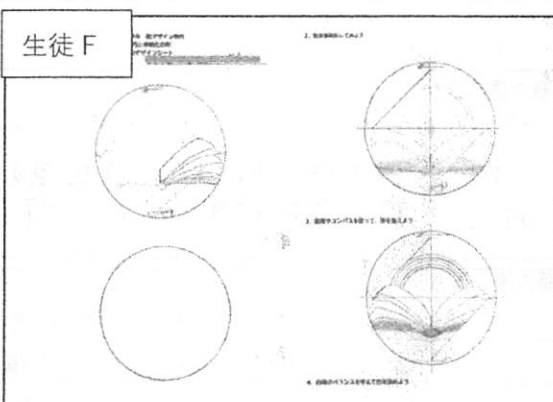
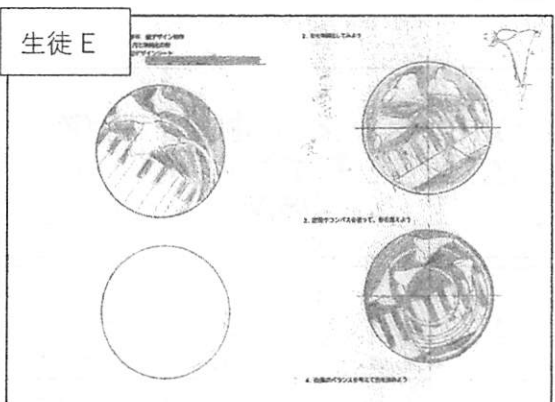
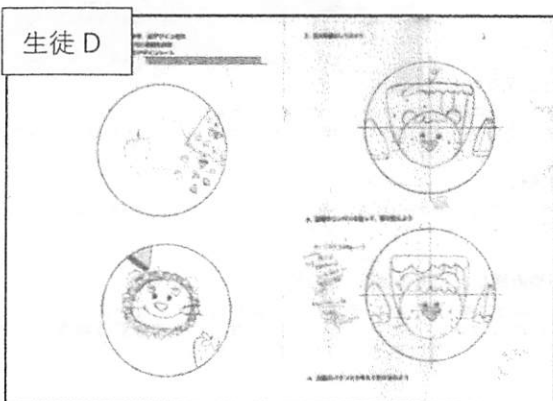
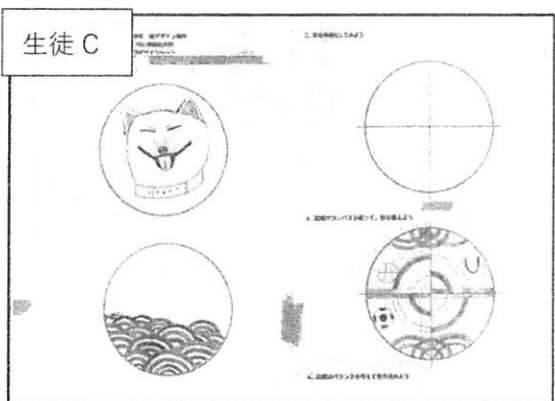
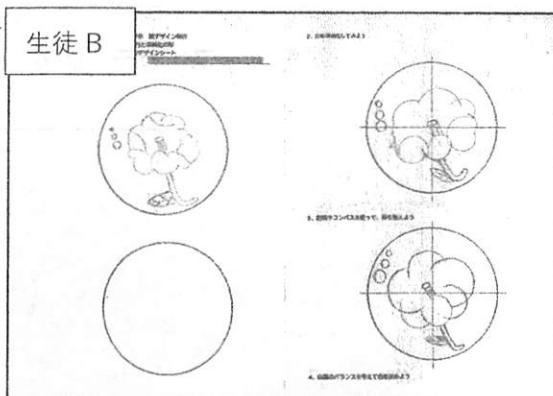
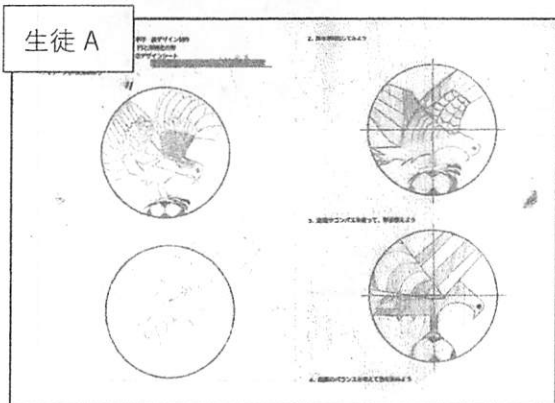
20	4 友人のアドバイスや話し合いでの気づきを元に、デザインの続きを行う。 ① 円に収める ② モチーフを単純化 ③ 円や直線で整える  【まとめあげる】	● 自分で残したいところや表したいことなど自分の意思の確認をよくするように助言する。その上で友人の意見から出たもので変更していけるか考えさせる。 ○友人のアドバイスをもとにモチーフを単純化し、定規やコンパスを用い、直線や円を効果的に利用して、円の中に美しく収まる形を表現できる。(知識及び技能) ○ 友人のアイデアから、紋の造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫についての見方や感じ方を広げようとしている。 (学びに向かう力、人間性等) 【観察・文章】	ワークシート タブレット 定規 コンパス
5	6 本時の振り返りを行い、次回の目標を立てる。 ● 今日の作品を撮影し、タブレット端末をしようして提出する。 ● 紋のデザインで工夫したことや気がついたこと形について、考えたことをまとめる。		タブレット ワークシート 振り返り用紙

(1) 板書計画

友人のアドバイスから、紋の形の見方や感じ方を広げ、デザインに活かそう。		紋画像	紋画像
1. 円に収める。	相互鑑賞 方法 ・一人のアイデアについて、話し合いを行う。(2分間) ・良いところ悩んでいるところを共有する。		
2. モチーフを単純化する			
3. 円や直線で整える			

7 資料

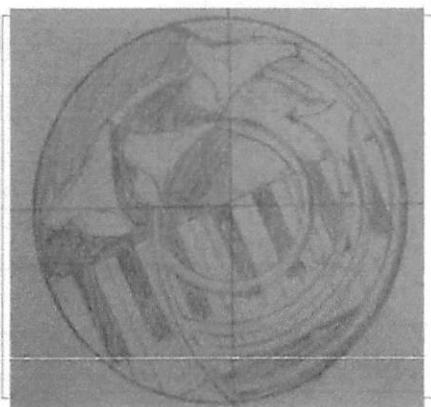
1. ワークシート



2. 作品カード

相互鑑賞②班別鑑賞で使用。

紋モチーフ: カラーの花、ピアノ



円に収める
カラーを円周に沿った形にして、花の位置は少しずつずらした。直線で描きたかったピアノ用に下部に余白を作り、入れ込んでみた。

単純化
カラーの茎をきれいな弧で表し、平行に。ピアノの黒鍵は等間隔にした。花の部分はフリーハンドのままになっている。

円や直線など図形の利用 その他
カラーは弧を利用して配置。ピアノに曲線は入れてない。線対称、点対称にはできなかったが、対象といえる要素は意識してみた。線だけでなく、背景も含めて色分けも対象っぽくしている。

紋モチーフ:



円に収める
内側にもう一つ線を置き、牛の前後が飛び出ているような立体感を出そうと試みました。

単純化
まだ途中段階ですが、かなり難しいです。単純化したところで、まさか単純に真似しただけというふうに分かるというか、よい単純化とは違うというか、そのような感覚があります。

円や直線など図形の利用 その他
円や直線、図形を使おうとも試みましたが、無理やり当てはめるような形になってしまいました。モチーフとした牛は、門の色合いが白黒である部分に着目して選びました。

紋モチーフ: 天秤



円に収める
途中まで複雑な形の天秤をモチーフにしていたが、単純化がしにくかったのもともとの形を丸なりにして単純化する作業をややすうにした。

単純化
まだ終わっていないが、円や直線だけになるように多少活用した。

円や直線など図形の利用 その他
真ん中の天秤を円形にしてコンパスで書きやすくしたり、そもそもの形を単純化せずとも円や直線だけで表現できるようなものをモチーフにしたなどの工夫をした。

4. 振り返りシート・最後の感想

課題の振り返り

紋についてあまり気にしたことなかったけれど、長にすると面白いか、特徴があり興味を持った。また、作成するときに部活や習い事、好きなものなどを組み込んで単純化するのが楽しかった。できたトートバッグをどこかの場所で使いたいの。

課題の振り返り

紋をつくらせてみて、最初は「単純化はどうか、できるのか」と思っていたけど、紋をつくらせていくうちに「コンパスで形を単純化したり、太さの線をいろいろ図形をうまく表現したことで、これが単純化か!」と気づくことができた。家へ犬猫を紋にしたので、このバリエーションをぜひ、いかにいれようかという感情になれたなと思いました。たくさん使っていていいと思います。

課題の振り返り

・自分に合ったデザインを考え、紋に単純化させるのが難しかった。
・友人の作品を見て自分のアイデアをより深めることができた。
・アイデアはもうより知ることになった。

課題の振り返り

最初のほうはうまくデザインが決まらず、製作がおくっていました。線対称にするなど円形収め方を工夫したらいい感じのデザインになってよかった。次回からはうまくできなかったら工夫するところを大切にしたいです。

V 成果と課題

成果

〈仮説1手立て①〉

- 自分の好きなものや大事にしているもの、道具やペットなどを選んでいる生徒は授業に積極的に向かう姿勢が見られた。

〈仮説1手立て②〉

- アイディアを記録することで、躊躇なくデザインを変更しながら進めることができた。
- 着彩もタブレット端末上で確認することができ、手描きよりもデザインの可能性を広げることができた。

〈仮説2手立て①〉

- タブレット端末を活用することで、短時間で多くの生徒の作品や意見を共有することができた。

〈仮説2手立て②〉

- 相互鑑賞をすることで、友人のアイディアからデザインを練り直す姿勢が見られ、見方や感じ方を深めることができた。

〈仮説3〉

- 出来上がったデザインを嬉しそうに使う生徒の姿が見られた。
- 上級生や下級生も気にして見ている。

課題

- 愛着のあるものを探することが困難な生徒や、自己肯定感の低い生徒にとって、自分のための「紋」デザインに興味を持てない生徒もいた。自分だけではなく、周りの人へも範囲を広げると良いかもしれないと思った。
- 相互鑑賞の時期が遅かったため、デザインを変えていこうとする生徒が少なかった。もう少し早い時期にグループ鑑賞を持てるとよかった。
- ICT への技術の差があり、相互鑑賞などのカードを作成する際には時間がかかってしまった。生徒の実態に応じて、手書きでできるものなどは ICT を使わなくてもよかった。ICT 利用の際は、タブレット端末や生徒の状態を精査してからでなくてはいけないと思った。